

## レジ袋を使わないことが 地球温暖化対策に役立つの？

レジ袋の使用枚数は国民一人当たり年間約300枚。市民全員が使った枚数で計算すると約1,630万枚(19年4月1日現在で換算)となります。

レジ袋1枚の製造から焼却過程で発生する二酸化炭素量は50グラムなので、市でレジ袋が使われなくなるとすると、1年間に削減される二酸化炭素の量は815トンになります。

全国的に、家庭からの温室効果ガス排出量を、1人1年365キログラム削減しようと呼び掛けていますが、レジ袋を使わないことで目標の約4%を達成したことになります。

皆さんがスーパーなどエコバッグを持参してレジ袋を使わないことで、温暖化対策に協力することができます。また、レジ袋1枚を作るために必要な原油量は約18.3ミリリットルです。1,630万枚のレジ袋を作るためには、2リットルのペットボトル



市とNPO法人みのかもグリーンネットでは温暖化防止のためのステッカーをイベントなどで配布して呼び掛けを行っています。

ルに換算して、約149,000本の原油を節約したことになり。小さなことだけど、最終的な処理まで考えると、ごみの減量にも役立ちますね。

※レジ袋1枚に必要な原油量は、地球温暖化白書を参考としました

## Bom Dia

### 考えよう。共生時代⑩

#### ブラジルの保健センター (前半)

今年4月から多文化共生室に勤務をしている、バルボザ・仲(つづき)です。今回のシリーズを初めて担当させていただきました。ブラジルでは看護師として保健センターに勤務をしていました。その知識と経験を生かして当市の保健センター(健康課)でも通訳をしています。

保健センターについて、ブラジルと日本の相違点をお話したいと思います。

ブラジル人の保護者が、子ども連れて当市の保健センターを訪れ「熱っぽいのでお医者さんに診察をしてもらいに来ました」ということが何回かあります。

それは、ブラジルの、ほぼ全国の保健センターでは、毎日医師の診察があるからです。小児科、内科、産婦人科、歯科などの医師たちが毎日午前、午後と決まった時間で診察を行い、必要であれば検査の受け付けをし、その場で予約を取り、後日、予約をした日に保健センターで検体(血液、尿、便、痰)を採取し、医療機関に送ります。

検査の結果は保健センターへ通知され、担当した医師に配られます。

ブラジルの保健センターでは、診察だけではなく処方せんに基づいて、薬の配給、けがの治療、予防接種などを行っています。

また、予防接種も日本とは相違点がありますので次回に紹介したいと思います。

(文責 バルボザ・仲)